



HAFU ADU (ハフア・アテイ - 先住チャモロ人の言語で「こんにちは(やあ元気?)」)

<http://www.jcguam.org/jsg/top/>

2011年4月25日(月)号

グアム日本人学校
校長 中村 宏

日本からのニュース

3月11日(金)午後、職員室で「日本で地震があったようだ」と職員が話しているのを聞きましたが、特に気にも留めませんでした。その後、校長室を掃除に来た現地スタッフの女性が英語で「グアムにも津波が来るらしいので心配だ」という意味のことを話したので、「離れているのだから心配はないだろう」と応じました。その後、次第に日本からのテレビニュースで「結構大きな地震」のようであることが伝わってきましたが、その時点ではその程度であり、その夜に、予定されていた会合に出るためにホテル街に向かいました。ところが、途中の海外沿いの道路には要所に少数でしたが警察車両が配置され、道路はほとんど車が走っていませんでした。同乗者と

「なんだか変だな、津波情報のせいかな？」

という会話をしながら会場のホテルに着くと、日本人観光客が大勢日本のニュースを流しているテレビの前に集まって心配そうに見ていました。館内には「TSUNAMI」という文字が書かれた看板が海岸に通じる通路に出され、その方面には行けなくなっていました。一応会合は予定通り開かれたのですが、後で、あれはやはり道路封鎖であったこと、ホテル街では下の階を閉め切り宿泊客を一定の階以上に避難させていたこと等を知りました。そして、翌日以降になって、事の重大さを次々に知らされることになったのです。

テレビから流されるすさまじい映像、日々被害が更新される新聞紙面、数日経っても現実には起こっていることとは思えず、「これは夢ではないのか」と何度も思いました。3月16日はグアム日本人学校の卒業式でしたが、黙祷から始めました。校内には日本、アメリカ、グアムの3本の国旗等が毎日掲げられますが、修了式の日まで毎日、真ん中の日の丸だけは半旗でした。その旗の下で、児童生徒は義援金募金活動を続けました。

先日の2011年度始業式では、児童生徒に対して、「悲しみは受け止め続けなければならないが、悲しみだけを引きずっているわけには行かない。その悲しみを乗り越えられるたくさんの素晴らしい出来事を創り出していこう。」と呼びかけました。

日本を離れていると、やはり母国は頼りになるものであり、誇りに思いたくなるものです。その日本の惨状を見ることはとてもつらいものです。でも、一連のニュースの中で、大惨事の中でも秩序を崩さず助け合う日本の人々の姿が流れ、復興への動きが少しずつ流され始めると、「日本ってすごいんだ」と思えてきます。その姿に逆に励まされます。今、日本にがんばってほしいです。

グアム日本人学校 その2

【フリーマーケット】

グアム日本人学校は、PTA 主催行事としてフリーマーケットを毎年開催しています。これは、PTA 関係者が各自の家から寄付として品物を持ち寄り、マーケット会場として提供される校舎や中庭に展示して即売するものです。当日は、開場時間を待ちきれずに早朝から大勢の現地の人たちが校門前に並んでいます。もちろん日本人も大勢来ます。人気があるのは、やはり日本の電化製品等です。展示物品は多岐にわたり、大はキングサイズのベッドや家具類から、小はゲームソフトやアクセサリーまで様々です。

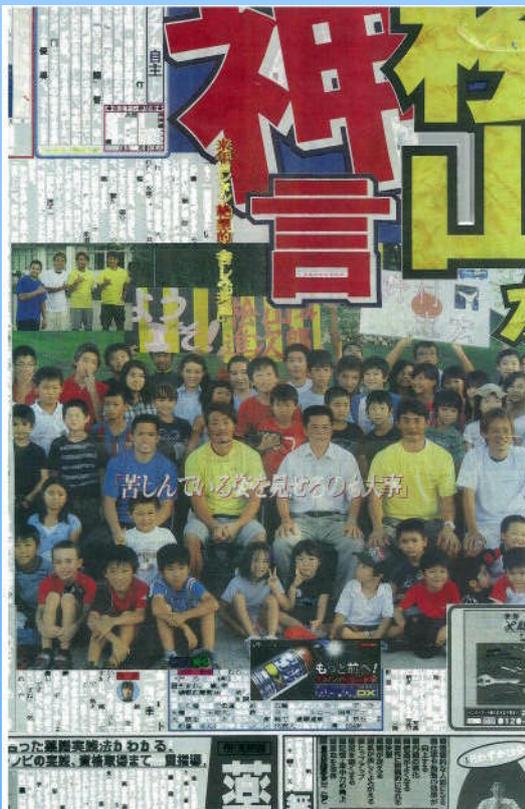
在外教育施設であるグアム日本人学校は、グアムの地に開設させていただいています。それだけに、日頃から地域のみなさんと良好な関係を構築していくことを心がけております。この PTA 主催フリーマーケットは、もちろん PTA の活動資金捻出が主目的ではありませんが、地域との良好な関係構築にも大きな役割を果たしています。

【写真右】開門と同時にフリーマーケット開場に駆け寄る人々



【有名人来校や寄付】

グアム日本人学校には、色々な人が来校されます。有名な方々も多く、校長室には過去の来校者から頂いた様々な品物が展示してあり、中田英寿さんのサイン入りサッカーボールなどもあります。昨年は「ヴァイオリンの貴公子 高橋卓也」さんが校内でミニコンサートをして下さいました。また、今年1月には、阪神の桧山・浅井選手はじめ、柔道家の野村選手、レーサーの脇阪選手が来校されました。桧山選手は長年本校との交流があり、本校への寄付を続けて下さっています。



【写真左上】

『デイリースポーツ』紙2011年1月13日
グアム日本人学校を訪問した4選手



【写真右上】

「ヴァイオリンの貴公子」高橋卓也氏
グアム日本人学校でのミニコンサート

グアム日本人学校の様子はホームページ (<http://www.icguam.org/jsj/top/>) にも掲載されていますのでご訪問下さい。

グアム紹介 その2

グアムに住んで1年経つと、いろんな事が見えてきたり気づいたりしてきます。以下、数本レポートします。

【犬と(空飛ぶ)鶏】



まず、驚くことは、とにかく野良犬が多いということです。また、一応は飼い犬らしいと思われる犬でも、放し飼いが多いです。ですから、道を歩いているだけで野良犬の集団に取り囲まれることもありますし、何かの拍子にうっかり他人の敷地にでも足を踏み入れようものなら、とたんに「番犬」共に追い回されることもあります。私は今では要領が分かり、5～6匹の野良犬に取り囲まれても負けないようになりました。(左の写真は、まだ可愛げな犬の方です。)

さらに驚くべき事に、「野良鶏」ならぬ野生の鶏が多いのです。これは決して「放し飼い」の鶏ではなく野生の鶏なのです。これが親子や家族でそこいら中を歩き回っているのです。彼等はたくましくて、自らが追い詰められるとなんと空を飛びます。鶏が空を飛ぶのです。私は自分の目で、鶏が数十メートル、しかも空中でコースを変えて飛び去っていくのを目撃しました。



【ゴミポイ捨てと無分別】



残念なことです、ゴミのポイ捨てが目立つ道路が多いのが事実です。でも、幹線道路脇で、ゴミを拾い集めているボランティアらしき姿を見つけたこともあります。また、ゴミは、段ボール以外は現在のところ「無分別」で廃棄します。ですから、空き缶や空き瓶と燃えるゴミとは一緒くたで廃棄という、日本では信じられない捨て方です。これだけは未だに慣れることは出来ません。

【笑顔と声かけ】

グアムにはとても素敵な習慣があります。知らない人同士でも目が合うと「ニコッ」と微笑みかけてくれるのです。エレベーターの中では、後から乗ってきた人のために「何階？」と聞いてボタンを押してあげたり、「おはよう」「お休み」「いい休日を」などの挨拶が交わされたりします。ジョギングしていると、手を挙げたり声をかけたりしてくれます。いずれも知らない人同士で自然に行われています。これらの習慣は、あまり日本ではお目にかかることはないでしょう。



【写真右上 笑顔の住居守衛女性係員】

ビザ顛末その2

「グアム日本人学校だより」No.1でお知らせしていた「ビザ問題」ですが、ようやく収束しました。結論から述べますと、以前のような公用ビザは、アメリカ合衆国内の日本人学校派遣者には今後交付されないようで、結局はJビザ取得で落ち着きました。以下、「ビザ顛末その2」をレポートします。

私と妻は、昨年末の31日～年始の2日にかけて、鳥取に帰省しました(理由は後述)ので、年末年始の鳥取県内の雪のひどさは身をもって体験しました。なぜ予定にもない帰省をしたかといいますと、本年度米国内への派遣者は、突然これまでの公用ビザ発給が停止され、この件で一年間ゴタゴタが続いたのですが、それまで便宜的に発給されていたBビザ(観光ビザ)からようやくJビザ(交換者ビザ)への切り替えが出来ることになり、文科省の指示で米国派遣者が一斉に東京に集まり、米国大使館でビザ発給の手続きに入ったという訳です。これが12月28日でした。ところがあるろうことか、その手続きの最中に、米国側発行の全員の手続き書類に間違いがあることが判明し、年内の手続きが不可能になってしまいました。12月30日にグアムに戻る予定の飛行機便は当然キャンセルし、関係ホテルもキャンセル、さらに正月を挟んでしまうために1月3日以降まで米国大使館での手続き再開を待たねばならない事態となりました。予定していた行程はグチャグチャになり、仕方なく、急遽夜行バスで12月31日早朝鳥取まで帰り着いたら、とんでもない大雪に遭遇したというわけです。ここから先も大変で、今度は1月2日に東京に戻らねばならなかったのですが、飛行機とバスは満員又は運休。JRも西回りは運休で、ようやく鳥取発の「スーパーはくと」と新幹線で1月2日深夜に東京に戻りました。結局ビザを手にしたのは4日で、なんとか1月5日にグアムに戻ったときには、私も妻もくたびれ果てていたというのがこの年末年始でした。

これまでも色々な経験はしたつもりでしたが、本当にこの度の事を始めとして、昨年4月からこの1月まで、想定外の出来事の連続でありました。その後はようやく心穏やかになれたのですが、それからは年度末に向けて仕事に追われ、さらに新年度準備も加わって毎日を忙しく過ごし、なんとか無事に新年度をスタートしたところです。



【グアム日本人学校のシンボルマーク】



【グアム日本人学校のマスコットマーク「ココバード」】